

## 社会との連携

社会の一員として、様々なステークホルダーの皆さまと環境コミュニケーションの推進に取り組むことで、共に自然環境と調和した社会の発展を目指します。

### 環境コミュニケーションの拡充

#### 生物多様性への取り組み

「スズキ地球環境憲章」の理念を実現するため、環境ブランド「SUZUKI GREEN」を導入し、その中の環境方針として「スズキ生物多様性ガイドライン」を発表しました。

「スズキ生物多様性ガイドライン」は、人類の誕生以来、私たちの生活に多大な自然の恵み(生態系サービス)をもたらしている「生物多様性」に事業活動等が影響を及ぼす可能性を認識し、その影響の低減に取り組み、持続可能な利用に努める指針となるものです。

事業活動や社会貢献活動において、すでに生物多様性への影響を低減する多くの取り組みを行い、「生物多様性民間参画パートナーシップ」※にも参加しています。

このガイドライン発表により生物多様性に関する理解を社内に浸透し、お取引様や地域社会の皆様ともコミュニケーションを図りつつ、スズキグループは自然と共生する持続可能な社会の発展を目指します。

※生物多様性条約の目的達成のため、経済界を中心とした幅広い事業者が自発的に生物多様性の保全と持続可能な利用に向けて取り組み、その情報を共有するパートナーシップです。

●スズキ生物多様性ガイドライン <http://www.suzuki.co.jp/about/csr/index.html>

#### 【基本的考え方】

スズキグループは、「生物多様性」に及ぼす影響を低減し、将来にわたって持続可能な利用に貢献するため、“小少軽短美”をスローガンに、ムダのない効率的な事業活動を徹底し、環境技術を追求めた小さなクルマづくりを推進します。

こうした活動理念に基づき、スズキグループは社会の一員として、様々なステークホルダーとの連携に努め、美しい自然環境と調和した社会の発展を目指します。

#### 【生物多様性の重点取り組み】

##### ・事業活動および製品における環境負荷の低減

- ①「製品開発」から「リサイクル」に至る事業段階において、省エネ・省資源・3Rを推進します
- ②温室効果ガス低減のために、燃費向上と次世代車の研究開発を推進します
- ③サプライチェーンを通して、環境負荷物質の使用削減に努めます

##### ・環境コミュニケーションの推進

- ①地域社会と連携・協力して、環境美化・環境保全活動を推進します
- ②全社員へ生物多様性に関する理解と行動の浸透に努めます
- ③環境情報や自主保全活動を広く社会へ公表することに努めます



「エコキッズ体験塾2014」  
森林環境の観察

【具体的取り組み事項】

事業活動および製品における環境負荷の低減		環境コミュニケーションの推進	
①	事業所毎の省エネ実績を社内公表 リサイクル設計による資源の有効利用 埋立廃棄物ゼロレベル継続、節水の徹底 輸送効率の向上と梱包資材の削減 使用済み製品のリサイクル率向上 太陽光発電の推進	①	地域や自治体の清掃活動への参加 事業所周辺のクリーンアップ活動 「スズキの森」植林ボランティア活動 下川テストコース「FSC森林認証」の継続 「法人の森林制度」への参加 スズキの「森林環境貢献度」の把握・公表
②	グローバルな平均燃費の向上 小さな車に適した次世代車の開発推進 軽量、低コストな空冷燃料電池の開発 各国排出ガス規制への対応	②	社内ホームページ掲載による認識の向上 新入社員研修や職場教育でSUZUKI GREEN Policyを紹介 社内エコドライブ講習会の継続 地域NPO環境教育イベントへの参加・協力
③	各国環境負荷物質使用規制への対応 塗装工程や車室内のVOC削減の技術開発 高懸念物質の代替推進 「スズキグリーン調達ガイドライン」に基づくサプライヤーとの連携 事業所立地等における周辺環境への配慮	③	「スズキ環境・社会レポート」の公開 生産と製品について各種環境情報の公表 環境イベントへの参加・出展 工場見学による環境に配慮した生産工程の紹介 工場周辺住民との交流会、意見交換会 「スズキ歴史館」に環境コーナー設置

●スズキマナーアップ活動

従業員のマナーアップ及び環境美化意識向上を目的として2004年9月に「浜松市道路・河川里親制度」※に登録し、「スズキマナーアップ活動」と題し清掃ボランティア活動を行っています。

この活動は毎月社内ボランティアにより、本社周辺道路及び高塚地下道の清掃を行っており、2014年度までに活動126回を数え延べ参加人員9,829名、軽トラック54台分の可燃・不燃ごみを回収しました。

※里親を希望する団体が自らの区域及び活動内容を定め、市長に申し出て道路内の清掃などを行う制度。



スズキマナーアップ活動

●クリーン・アップ・ザ・ワールド・キャンペーンへの取り組み

マリン事業では、お客様に感動と満足を提供し、水上での素晴らしい一日をきれいで健全な環境で過ごしていただきたいと考えています。この役割を果たすため、社員自らが身近にできることから始めようと、地域の河川・湖・海辺の清掃活動に取り組んできました。

2010年12月に浜松市の佐鳴湖で始まったこの活動は、海外代理店まで拡大し、2013年末までに17か国、計27回の清掃活動を行うまでになりました。2014年にはインドネシア、スリランカ、イタリア、ナイジェリアの4か国で清掃活動を実施し、海外代理店においても環境の意識が高まってきています。

本年、2015年に船外機50周年を迎えたことを記念して、さらにこの活動を発展させ、世界各国でのマリン環境整備による地域貢献を目指したく考えています。



インドネシア

スリランカ

イタリア

ナイジェリア

## ●森林保全活動

## スズキの森(浜松市)

林野庁天竜森林管理署と「ボランティアの森」協定を結び、2006年3月に浜松市北区引佐町の「スズキの森」で森林保全活動をスタートし、年3回従業員やその家族により植樹・下草刈り作業、シイタケの菌打ち・収穫体験等の森林活動を行っています。

当活動は2014年度までの累計で25回(植樹9回、下草刈16回)を行い、1,292人のボランティアが参加しています。



「スズキの森」植林活動



下草刈り

## スズキ下川テストコースの森林(北海道)

スズキのテストコースは、森林が総面積の約90%を占める北海道北部の上川郡下川町にあります。下川町は2003年北海道で初めて下川町森林組合グループとして国際的なFSC®※1森林管理認証を取得し、2011年には国から豊かな森林資源を生かした地域づくり「環境未来都市※2」のモデル自治体に選定されて「人が輝く森林未来都市」を目指しています。(FSC® C015134)

テストコース敷地に含まれる約303haの森林も、FSC認証制度の厳しい森林管理基準に適合していると認められ、2006年から下川町のFSC森林グループ認証に追加登録されました。

スズキは森林の環境保全とともに、第41回を迎える下川ジュニアジャンプ大会をスズキの冠大会として開催応援する一方で、20年以上に亘りスズキ従業員と地域の皆さんとの交流会を毎年極寒の2月に開催するなど、地域社会との共存共栄を図っています。

※1 FSC:Forest Stewardship Council 森林管理協議会

※2 「環境未来都市」は、未来に向かって「誰もが暮らしたい」まちづくりで、世界トップの成功事例創出のため、国が選定して戦略的な取り組みを行う地域です。



下川コース(北海道)



下川ジャンプ少年団へ移動用バスを寄贈



耐寒テスト激励会



### 「法人の森林」制度への参加(北海道)

環境・社会貢献活動の一環として、国有林を活用した「法人の森林」制度に参加し、1996年から2028年まで国(林野庁)と分収林契約を結んで森づくりに協力しています。

下川町内の国有林約4.3ha(樹木約3,000本)について、北海道森林管理局を通して地元森林組合に作業を委託して「分収育林」を行っています。水源のかん養・土砂流出防止・二酸化炭素の吸収貯蔵など、国土の保全に長期間貢献し、分収の際には純収益をさらに森づくりに役立てることであります。

※林野庁:「法人の森林」「分収育林」[http://www.rinya.maff.go.jp/j/kokuyu\\_rinya/kokumin\\_mori/katuyo/kokumin\\_sanka/hojin\\_mori/index.html](http://www.rinya.maff.go.jp/j/kokuyu_rinya/kokumin_mori/katuyo/kokumin_sanka/hojin_mori/index.html)

これらスズキの森林による2014年度環境貢献度は以下のように評価されました。

### スズキの森林による環境貢献度(2014年度)

測定項目	「下川テストコースの森」 FSC森林グループ認証	「法人の森林」 林野庁森林管理局
①水源かん養への貢献	156,140 m <sup>3</sup> /年	1,409 m <sup>3</sup> /年
②土砂流出防止への貢献	5,576 m <sup>3</sup> /年	51 m <sup>3</sup> /年
③二酸化炭素の吸収・固定への貢献	1,826 CO <sub>2</sub> トン/年	17 CO <sub>2</sub> トン/年

※林野庁で採用している事業評価方法により計算しています

- ① 2ℓペットボトル 7,878万本分
- ② 10tダンプ(5.5m<sup>3</sup>/台) 1,023台分
- ③ 1人が年間に排出するCO<sub>2</sub> 5,761人分

## グリーン調達推進

「スズキグリーン調達ガイドライン」を制定して、環境保全活動に意欲的なお取引先様から環境負荷の少ない部品等を調達することを方針としています。賛同いただけるお取引先様には「スズキグリーン調達推進同意書」をご提出いただいています。

2013年10月には本ガイドラインを一部改訂し、お取引先様の環境負荷物質管理体制の構築の項目を明記すると共に、管理体制の自主チェックシートを作成し追記しました。

その他、「欧州ELV指令」や「欧州化学物質管理法規(REACH)」等の従来規制はもちろん、今後制定の様々な環境関連法規についても、お取引先様とともに遵守に努めていきます。

※グリーン調達ガイドライン：<http://www.suzuki.co.jp/about/csr/green/guideline/index.html>

## 環境教育・啓発

### ●階層別教育

従業員育成プログラムの一環として、新入社員教育にスズキの環境理念や環境方針、環境課題、エコドライブ推進等の基本的な環境教育を取り入れて、新入社員の環境への意識改革を行っています。また、業務に合わせた職能別環境教育、管理者等への環境内部監査員教育等も行っています。国内工場及び金型工場では、環境事故等を未然に防ぐため、各工場独自に環境上重要な工程の作業員への教育を中心に、新入社員への導入教育、役職者教育、そして全体教育等を実施しています。

### ●有資格者の育成

有資格者育成にも積極的に取り組み、公害防止管理者160名、エネルギー管理士37名、環境内部監査員579名を育成しました。

## エコドライブの推進

### ●社員へのエコドライブ教育の実施

2007年度より、環境教育時の一項目として、エコドライブ教育を行っていましたが、2009年度より、本社及び各工場・事業所でエコドライブに的を絞ったエコドライブ講習会を随時開催し、現在までに、延べ3,357名が受講しました。また、燃費の良い車両に積極的に入れ替えることも進め、効果として業務用連絡車の消費燃費が2013年度に比べて1.0km/L向上しました。



エコドライブ講習会

## 環境家計簿の推奨

社員に対する環境教育の一環として、社員の家庭での環境意識の向上を図る「環境家計簿」の活用を推奨しています。

環境家計簿とは、各ご家庭で消費される「電気・ガス・灯油・ガソリン・水道等」のエネルギーからCO<sub>2</sub>排出量を計算し、環境にどのような影響を及ぼしているか収支を記録することで、「CO<sub>2</sub>削減」を目指す取り組みです。

これからも社員のご家庭とも協力しつつ、地球環境への配慮及び環境負荷の低減を推進していきます。

## 地域とのコミュニケーション

### ●地域交流会の実施

地域住民の方々との交流会を定期的実施してご意見を承り、改善活動につなげています。2014年度は地域交流会を国内工場、金型工場で計7回開催しました。また、工場見学については国内工場で465回実施しました。



工場地域交流会

### ●環境イベントへの参加

2014年度は以下の環境イベントに参加しました。

展示会名・報告書	開催時期	場所	主な主催
エコ&セーフティ神戸カーライフ・フェスタ2014	2014年5月17・18日	神戸メリケンパーク	環境省、神戸市
人とクルマのテクノロジー展2014横浜	2014年5月21～23日	パシフィコ横浜	公益社団法人 自動車技術会
人とクルマのテクノロジー展2014名古屋	2014年12月11・12日	ポートメッセ名古屋	公益社団法人 自動車技術会



エコ&セーフティ神戸カーライフ・フェスタ2014



人とクルマのテクノロジー展2014横浜



人とクルマのテクノロジー展2014名古屋